

法人東京電機大学校友会

千葉県支部だより

第9号

平成18年5月1日

事務局
千葉市稲毛区緑町
1-5-8
高率電設(株)内
TEL 043-242-1539
FAX 043-242-1884

■支部だより第9号発刊に当たり

支部長 松本 宏

東京電機大学校友会千葉県支部の皆様には益々ご健勝にてご精励のことと、お喜び申し上げます。平素は、校友会支部活動にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

お蔭様でここに「支部だより第9号」を発刊する運びとなりました。

さて、我が国の景気もようやく、上昇し始めた矢先、「ライブドア事件」や建物の「耐震偽装事件」そして「米国産牛肉輸入問題」、更に「幼い子の命が奪われる」とゆう痛ましい事件など、様々な事件が発生しております。中でもライブドア事件はIT依存症の若者への良い警鐘と受け止めたい。「額に汗して働く喜び」を尊ぶ世相を期待しているのは私だけでしょうか・・・？

最近こんな本を読みました。人間は140億位の脳細胞をもって生まれてきて、一生で使うのは、そのうち3%〜7%位である。その脳細胞は数だけあっても何の活動も出来ない、「シブナス」とゆう回線が結ばれた時、初めて活動を開始する。その「シブナス」は長い間20才位でその発育が止まると言われてきた。ところが、最近アメリカでの人体実験の結果、何才になっても、新生でできるごとう発表があった、そしてこの「シブナス」は適切な刺激によって、発達するとゆうことよ

うである。この90%以上残っているであろう脳細胞を活動させるために、「愛情ある適切な刺激」を活用して、一つでもその「シブナス」を新生したい、と思っている今日この頃です。

一方、母校の学園は少子化が進み、厳しい教育界を取り巻く環境の中で、来年の9月11日に創立100周年を迎えることになりました。くしくも来年は「大学全入時代」の幕開けの年であります。今、学園は将来を見据えた「全学的改変」と「神田再整備事業」を柱とした「創立100周年記念事業」を推進しているところです。なんとしても成功していただきたい、成功させたい。そのためにも千葉県支部校友会各位の格別なるご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。併せて、今後共支部の充実・発展に更なる、ご指導、ご協力をお願い申し上げます。支部だより第9号発刊に当たっての挨拶とさせていただきます。

また首都圏におきましては、職域電機会の設立支援を通じ校友会員の増強に努めているところであり、学園主催で開催されます卒業生招待会におきまして、校友会のしおり等を通じ、入会の勧誘を積極的に行っているところでもあります。

校友会の活動につきましては、大学の先生方に多大なご協力を仰いで地方支部での公開講演会や、見学会を開催し、校友会員への啓蒙とともに、公益法人としての活動の一貫として一般の皆様にも参加頂いているところでもあります。

このような活動を通じまして、校友会は卒業生の皆様と学園に貢献したいと考えておりますが同時に同じ学園の卒業生として帰属意識の高揚を図りたいと考えているところでもあります。

■千葉県支部の皆様へ

(社)東京電機大学校友会理事長 岡田 榮一

校友会千葉県支部の皆様には、日頃支部主催で講演会や見学研修会を開催され、常に研鑽に努められていることに深く敬意を表しますと共に、学園行事や校友会活動に積極的にご協力いただいておりますことに感謝申し上げます。

げます。

校友会の活動は申すまでもなく学園の発展に協力しまた連携をとりながら、卒業生たる校友並びに準会員たる在校生に対して、諸活動の中から様々なサービスを提供しているところでもあります。

通常会員の増強については、校友会活動を活発に行うには成し遂げなければならぬこととありますが、この度3月には長崎県支部と熊本県支部が新しく設立されました。これにより未成立の県は岩手県の一県を残すのみとなりました。

また首都圏におきましては、職域電機会の設立支援を通じ校友会員の増強に努めているところであり、学園主催で開催されます卒業生招待会におきまして、校友会のしおり等を通じ、入会の勧誘を積極的に行っているところでもあります。

校友会の活動につきましては、大学の先生方に多大なご協力を仰いで地方支部での公開講演会や、見学会を開催し、校友会員への啓蒙とともに、公益法人としての活動の一貫として一般の皆様にも参加頂いているところでもあります。

このような活動を通じまして、校友会は卒業生の皆様と学園に貢献したいと考えておりますが同時に同じ学園の卒業生として帰属意識の高揚を図りたいと考えているところでもあります。

さて、学園をとりまく環境は少子化、景気など様々な面で厳しい方向に進行しております。その様な中で学園におかれましては、創立100周年の記念事業の一つとして、将来に向けての優秀な学生確保のために、新学部「未来科学部」の神田キャンパスへの設置と、これに伴う工学部並びに理工学部の学部

内学科の再編成、さらに神田キャンパスを再整備計画等々と計画が進行していると伺っているところです。

来年9月11日は「学園創立100周年」の記念すべき年を迎える事になります。すべの卒業生が東京電機大学で学んで良かったと言える、さらに魅力ある学園になることを校友会として精一杯応援したいと思っております。千葉県支部の皆様にも募金等を含め絶大なるご支援を仰ぎながら学園の記念事業に対して協力を進めて行きたいと存じますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

■挨拶

学校法人東京電機大学理事長 加藤康太郎

校友会千葉県支部の皆様におかれましては、益々ご清祥にお越しのこととお喜び申し上げます。

昨今の社会でのごきことを振り返りますれば、マンシヨン、ホテル等の耐震偽装事件を始め青少年女に対するいたましい事件、偽メール事件など倫理観を問われる事件が多発しています。

一方世界に目を転ずれば、昨年のアメリカ南部を襲ったハリケーン「カトリーナ」などの自然災害や、イラク問題など前途多難なことがら山積しています。今後はどうか平穏無事で地球上の人々が生活できるように切に願うところでもあります。

さて昨年来本学が進めてきたこと、本年やるべきこと、そして今後の見通しについて述べさせていただきます皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

私立学校法の54年ぶりに大幅改正があり、本学寄附行為の改正を昨年実施しました。これは理事の執行監督機能の強化、監事の

業務監査の充実強化、理事長の責任強化、財務状況の公開等を中心とした法人の管理運営の改善につながるものであります。

また、創立100周年記念事業の推進については、創立100周年記念館(仮称)の建設を中心とする神田キャンパス再整備計画を具体化すべく鋭意検討を進めております。

創立記念日であります平成19年9月11日は、日本武道館にて創立100周年記念式典を挙行し記念講演会も開催します。また、会場を移し記念祝賀会も開催いたします。創立百年史編纂その他事業についても順調に進んでおりますことをご報告しておきます。

予てから本学将来構想企画委員会を中心に検討をまいりました。新学部創設と学部改編については、学園創立100周年を迎える平成19年4月に新学部として、人間の生活空間をデザインする新領域を担う人材育成を目指す「未来科学部」を神田キャンパスに創設すると同時に、全学的に学部の改編を実行すべく現在手続中であり。その結果既存工学部、理工学部、情報環境学部を含めて四学部構成で、次の100年をデザインする人材を育成したいと考えています。

小金井キャンパスの中学校・高等学校につきましては、厳しい生徒募集環境の中で特色ある理科系教育を目指す中高一貫教育の推進が社会から高い評価をつけています。今後共教職員一丸となって増々評価を上げてもらいたいと希望しているところです。

以上学園の近況につき報告させていただきました。平成18年度は新生東京電機大学誕生準備の年であり、平成19年に東京電機大学は生まれ変わります。くしくも平成19年は本学創立100周年の年であり意義深いものがあります。

私は創立者である扇本真吉、廣田精一両先生に感謝し、これまで引き継いでこられた先輩各位の努力に学び、断固として改革を進めるならば、本学のさらなる発展は間違いないと確信しております。

大学歌の一節を皆様思い出し試みて下さい。

「大いなる 歴史のなかで
われら新しい 真理を創る
東京電大 われらが母校
ああ讀えん哉 その伝統」

「大いなる 時空をめざし
われら新しい 文化を創る
東京電大 われらが母校
ああ燦然たり その未来」

我々の力であらゆる知恵を集め、自信をもってさらなる発展のための改革を進め、「新しい真理を創り」、そして「新しい文化を創り」、社会からより尊敬される東京電機大学にしようではありませんか。

校友である全東京電機大学人の皆様にご理解と絶大なご協力をお願い申し上げます。とさせていただきます。

■創立100周年記念事業の推進状況について

学校法人東京電機大学
創立100周年記念事業
推進本部長 円谷幸一郎

学校法人東京電機大学は、平成19年9月11日に、創立100周年を迎えます。

この創立100周年の記念に際し、創立100周年記念事業を展開しております。事業の概要につきましては、昨年の千葉県支部使用にも掲載を差し上げましたので、現在(平成17年度)の状況をお知らせいたします。

1. 神田キャンパス再整備事業

神田キャンパス再整備(100周年記念館(仮称)の建設)計画の基本計画が作成され、先般、理事長宛に答申書を提出いたしました。今後は、理事会において、検討され、進められることになりました。

2. 先端的な研究教育拠点の形成

e-Campus構想として、①キャンパス間ギガビットネットワークの整備(0.5Gbps)、②遠隔講義システム、③講義アーカイブシステム、④IPテレビ会議システムなどが導入されました。これらは、平成18年度から大学の授業で、3キャンパス同時開講の講義が始まり、学生がキャンパスを移動することなく他キャンパスの講義を受講できるようにするための設備です。

3. セミナーハウスの整備

既存の厚生施設(梅池、軽井沢、清里伊豆高原)は、平成18年度末をもって、閉鎖し、その後は経費補助方式で運営する予定です。

4. 創立100周年記念式典、記念講演会の

開催、各種記念行事の
実施等

創立100周年記念式典は、平成19年9月11日午前10時より、日本武道館において、記念祝賀会は、平成19年9月11日午後1時30分より、帝国ホテルにおいて執り行う予定です。なお、式典終了後開催される記念講演の講師は、毛利衛氏(宇宙飛行士)を予定しています。また、記念フォーラムについては、式典開催日の1週間位前に、神田キャンパスを中心に各キャンパスに映像配信する予定です。

東洋熱工業株式会社
東京本店長補佐 松本 宏
(昭和33年卒)

千葉電気工事株式会社
代表取締役 喜多村 賢一郎
(昭和35年卒)

城南電設企業株式会社
代表取締役 並木 鷹 男
(昭和44年卒)

高率電設株式会社
代表取締役 小川 重 二
(昭和28年卒)

株式会社DSSセンター
取締役相談役 花井 卓 郎
(昭和35年卒)

交栄電気株式会社
代表取締役 大塚 武 昭
(昭和42年卒)

東光電気工事株式会社東関東支社
内線課長 山本 隆 洋
(昭和55年卒)

モデン工業株式会社
代表取締役 関 泰 雄
(昭和26年卒)

株式会社しの・いんしゅあらんす
代表取締役 篠崎 浩 一
(昭和41年卒)

城南電設企業株式会社
常務取締役 徳久 昌 之
(昭和44年卒)

株式会社鹿北電気工事
工事部長 田中 豊 明
(昭和34年卒)

モデン工業株式会社
監 査 役 渡 辺 武 男
(昭和26年卒)

松本 武
(昭和39年卒)

千葉県議会議員
竹内 圭 司
(平成4年卒)

中立電機株式会社
主 査 大 石 博
(昭和63年卒)

モデン工業株式会社
安全管理室長 秋山 昭七郎
(昭和30年卒)

	目標 (億円)	累計 (千円)	件 数	状況 (%)
卒 業 生	3.5	54,181	1,490	15.5
在 校 生 の 母 親	5.5	67,689	1,047	12.3
教 職 員	2.5	76,765	213	30.7
法人・その他	4.5	120,527	80	26.8
合 計	16.0	319,162	2,830	19.9

フォーラムの構想、人選等の準備を進めております。

以上の事業は、多くの皆様の「厚志を予定のもとに進めており、何卒格別なご支援を賜りますようお願い申し上げます。記念事業募金への寄付者すべての方につきましては、「芳名録」に未永く顕彰させていただきますが、個人累計3万円以上、法人・団体、10万円以上の「寄付につきましては、「寄付者銘板」に記載し、学内に設置して「芳名を未永く顕彰させていただきます。」

千葉県支部の皆様方には、よろしく「協力ご支援をいただきたく御願致します。平成年3月31日現在の募金応募状況については下表の通り報告します。

健康について雑感(病気の成り方)

昭和41年卒 支部幹事 篠崎浩一

昨日、どのTVチャンネルをまわしても医療保険の宣伝がさまざまいほどです。国の医療制度が悪くなるに従い、民間の医療保険が台頭してくるようです。

人間の健康とは何だろつかというところ考えさせられるこのごろ、日本人の健康は、日本古来から存在するもの、日本人の遺伝子に組み込まれているものに求められるのではないかとつくづく感じます。空気、水、米、塩等など・・・

そこで、最近私が出会った話、物、本などを雑感を交えて紹介させていただこうと思えます。今回は「塩」編です。

○糖尿病を塩で治した話：ある方が糖尿病を塩で治したという。一日30グラム近い塩を半年程摂取すると体重は30キログラム減り、病気は全て消えたという。

○花粉症を塩で治した話：一日に塩を15グラム摂取したらきれいに治ってしまったという。

朝、起き抜けに5グラム、10時ごろに5グラム、昼過ぎに5グラムで11日位で治ってしまったそうです。

○減塩の話(塩と体力)：刑務所では何百年も前から受刑者たちの食事を50%減塩としたそうです。彼らの気力をぬくために・・・。減塩神話の現在の日本人の食生活はまさに気力抜き。50年前400しかなかった病気の数は現在では4万に増えている。

塩と高血圧の因果関係は米国の2人の学者のレポートから言われ始めたという。無理やりに体重の5倍の塩化ナトリウムをのまれたマウスの10匹中4匹の血圧が上昇しただけのことだったとか。

古来日本人は海からミネラル豊かな塩を取り、醤油、味噌、漬物、干物、と食してきた。塩が体に悪いとすれば、それは化学塩の精製過程で猛毒の二カリができてしまっていることである。

塩は人間の体力維持に欠かせないものということはsalarv(給料)という語源が塩、saltからきていることを以ってしても明らかです。私が出会った極楽塩という塩は波動法という特殊な製法で作られています。私の人体実験済みですが体力の弱ったときや肉や野菜を調理する際の解毒(?)作用に効果が出てきめんです。

玄米の勧めはいろいろと本にもなっていますが、友人に抗がん剤の服用で体力が弱ってしまったため徹底した玄米菜食で体力を取り戻した人がいます。

白米、肉食、化学塩、白糖、減塩、食品添加物・・・これらをやめたら体も健康になり人間の精神も安定し、いわゆるケレルといった訳のわからない事件などが減っていくのではないかと思っているわただだけの考えでしょうか？

最近読んだ本で、新谷弘実ドクター「病気にならない生き方」は著者が医者であることでより説得力のあるすばらしい本でした。ぜひ、読まれることをお勧めします。

「健康でありさえすれば死んでもいい」といってはばからぬ三遊亭歌之介師匠という断家がいます。

ヒマラヤトレッキング②

副支部長 田中 豊明

幾つかの集落を通りある村はずれで休憩をしていたら、十人位の子供が集まって来てニコニコしながら我々を珍しそうに眺めている。

「変な人が来た」とでも言っているのかな。カメラを向け並びぶように言つと、キーカー言いなながら素直に従つた。

この地区はトレッカーが入らないので子供達も人擦れをして居ず、純真で可愛い。最終の集落を通り抜け狭い川原で昼食をしていたら、十歳位の男の子が五歳位の男の子を連れ二歳位の女の子を背負い牛二頭を追って来た。

我々の食事風景を大きな岩の上に三人仲良く並んで見ている。モンキーバナナを与えたらお兄ちゃんが皮をむいてやり、妹の面倒をみている。

狭い岩だらけの川原での、二十数人のキャラバン隊の食事風景は、彼らには珍しいことなのだろう。

小一時間岩の上に居た微笑ましい光景でした。コルチョンビクの登頂を終え、村に下り農家の一角でキャンプ、一山終えはつとした一夜。

夕食の後、スタッフ、ポータの労をねぎらう為、ビール(村の商店に有った七本のビールを全部買い占めた、一本百円位)と焼酎の様な地酒を調達させ、パーティを始めた。

食堂テント前にガス灯のようなランプが一灯にスタッフのヘッドライトが五個のうす暗い所で、スタッフ、ポータのネパール民謡。

我々サーブは山の歌、日本民謡、酔いがまわるにしたがい炭鉱節、東京音頭等を踊りだした。それを速巻きにして見ていた、近所のおばちゃんや娘を仲間に入れての、シエルバーダンス。次第に盛り上がりドンチャン騒ぎになった楽しい一夜だった。

カトマンズからランタン谷に向かう専用バスは、九時間も埃だらけの凸凹の国道を行く。マウイスト(毛沢東主義共産主義者)が活

発にゲリラ活動をしているため軍隊による検問所が数カ所あり。

遮断機の横の、山の斜面の銃座からは、銃口がこちらを狙って居る、不気味だ。

検問所は、マウイストの移動を阻止するのが目的だから、一般の路線バスは、乗客全部を下ろし一人ずつ、ボディチェックをしているが、フロントガラスに「TOURIST BUS」と書いた専用バスの我々旅行者には厳しく無い。その都度、銃を持った兵隊がバスに乗り込み見回っていく。

チベット人と間違えそうな私でも「ジャパン？」と日本人扱いをしてくれる。

ゲリラ対策として、現地エージェントの担当者から一人当たり二千五百ルーピー計一万二千五百ルーピー(約二万二千円)の現金を預けられた。

トレッキング中にゲリラに金を要求されたら躊躇せず金を渡し、領収書を受け取っておく様に言われた、二度目の時は領収書を見せる。一人当たり二千ルーピーが相場とのこと、

この馴れ合いには恐れ入りました。この金を使うこと無くエージェント担当に返却しました。

ネパール王国では、観光と農業のほかたいした産業は無く、貧しい国だから、マウイストが山間部の農民に布教活動をしている。

王国のエリート官僚の軍人、警察官はマウイスト狩りに従事している国。

今回のスタッフは皆さん日本最前でした。サーダのアン・カミ・シエルパは、良く全体をまとめていた。

助っ人のサーダのアン・サング・シエルパは富山県の山間部で、土木工事に四年間従事していて、日本アルプスを良く知っている上、日本の山仲間にも招待されて、松本に三カ月い

て穂高岳、槍ヶ岳等を歩きまわったとのこと、愉快な男だ、呼び名を「松本君」としたら、彼の父親にそっくりだからと私を「パ。」と呼んでいた。

サーダ助手のフルバ・ゲルジェ・シエルパ(二一歳)は、会話の中での「孫悟空の様な」との言葉をこらえて「孫悟空」とは何ですかと質問してきた。

三蔵法師が中国からチベットを通り、ヒマラヤを越えネパールへお経を求めての長い旅の話をした。

日本語の勉強をしますと、小型辞書を四冊もザックから取り出してきて。

我々から何かを吸収しようという態度に感激して、内蔵氏が電子辞書をプレゼントした。コックのバツサン・ノル・シエルパは、日本の登山隊に数度参加した男で毎回、日本人向きの料理を出してくれる気の使いようだ。

ノロノロ歩く私のための専属スタッフのドル・シエ・シエルパは、無口だが良く気を使ってくれた。

良いスタッフと、良い天気、良い仲間、恵まれて楽しいトレッキングが出来たことに感謝しています。

第35回千葉県支部通常総会報告

副支部長 花井 卓郎

第35回通常総会が平成17年6月11日(土)母校の千葉ニュータウンキャンパスに約60名の出席者を得て開催された。今年度の特別講演は工学博士の根本幾教授「外から人間の脳の働きを探る」と題して行われ、興味深いテーマとして一般の方を含め約70人の方の参加を頂いた。

講演後総会に入り、議案審議に先立ち、加藤学園理事長より東京・秋葉原に「東京電機大学秋葉原サテライト」を開設したとの報告

並に100周年記念事業について説明を頂いた。議事に入り、平成16年度事業・決算等の報告、平成17年度事業計画予算、および役員増員の件等について審議が行われ承認された。

総会後、福田ホールにて懇親会を開催、ご来賓として加藤学園理事長様、高久校友会常務理事様、根本教授、高登様、桜井様、相原様、笹川様を始め多数の方々のご出席を頂き和やかに進められました。

■千葉県支部総会と講演会・見学会及び懇親会の二案内 ※第36回千葉県支部総会と講演会・見学会及び懇親会は別紙同封しました(「案内」をご覧ください)。

下さい。特に今回は、総会に引き続き首都圏初の大学キャンパス風力発電設備の見学会を実施します。是非多数のご参加をお願いいたします。

なお、千葉県支部として◎「創立100周年記念事業」の募金をお願いします。総会会場で受付いたしますのでよろしくお願致します。募金応募者の「若名および金額は」校友会千葉県支部だより第10号」に掲載します(平成19年4月末発行予定)

編集後記

山本 隆洋

「本だより」の原稿は、長文が多く、全てをこの紙面に収めることができませんでした。

特に花井副支部長の「総会報告」は、大幅にカットし、主旨のみ記載とさせて頂きました。篠崎幹事の「健康について」は、貴重な資料が載せられませんでした。田中副支部長の「ヒマフヤトレッキング」も一部カットさせて頂きました。恐縮ですが、続きを次号に執筆して頂けると幸いです。

原稿を作成して頂いた方々にお詫びいたしません。

東京電機大学校友会 平成18年度千葉県支部役員名簿(案)

役名	氏名	TEL
支部長	松本 宏	047-462-6205
副支部長(支部長補佐)	松本 武	047-479-4928
副支部長	喜多村賢一郎	043-236-1867
"	徳久 昌之	043-237-7512
"	田中 豊明	0439-67-0335
"	花井 卓郎	04-7166-0206
常任幹事	大塚 武昭	043-271-2735
"	畠山 忠之	043-423-4284
*"	山本 隆洋	047-493-3626
*"	大石 博	047-377-8790
幹事	黒澤 昌弘	0475-52-5538
"	竹内 圭司	043-293-7779
"	猪狩 俊明	0436-22-4656
"	篠崎 浩一	043-290-8100
"	市川 勝利	043-432-6432
"	岡野 敦	047-450-0483
"	桜井 智明	0470-93-2761
"	葛西 信司	047-475-7393
"	茂木 仁博	04-7191-4184
"	匠 勇治	048-832-9524
"	増田 修一	043-275-6703
"	鈴木 力	043-443-3483
"	岡野 勇	0476-99-0752
*"	高橋 洋二	047-354-1762
*"	落合 秀雄	03-5385-0588
*"	堀岡 佑吉	04-7126-1333
*"	安藤 志朗	04-7169-3170
監事	山本 忠雄	047-337-2380
*"	横田 良一	043-496-5385
相談役	小川 重二	047-472-2656
"	関 泰雄	043-261-3284
"	竹内 保	047-353-2552
"	杉沢 順一	047-378-8951
"	小林 健治	047-365-4838
退任監事	緒形 久四郎	047-491-6671

*印=新任